

コンテナを利用した直売所向けイチジク栽培技術の開発

農林センター 丹後特産部

要旨

直売所向けに簡易に取り組めるイチジク栽培は品種「榊井ドーフィン」を用いて25 Lポットに植栽し、緩効性肥料を用いて栽培することで植付け1年目の秋から収穫ができ、2年目以降も継続して収穫が可能である。

成果の概要

品種は、収量性から「榊井ドーフィン」を用いる（表1）。

培土はまさ土とバーク堆肥の1：1混合土を用い、1ポット当たりカキ殻石灰を30g、ようりん10gを施用する。施肥はエコロング424-140日タイプ（14-12-14）を1ポット当たり215g（窒素成分30g）施用が収量も多く良い（表2）。また、施肥を基肥と5月の追肥に分割施用することで、果実糖度の向上が期待できる（表3）。

仕立方法は、1樹当たりの結果枝数を2本と4本で検討した結果、収量、果実品質に差のないところから、分かりやすく作業等のしやすい結果枝2本仕立てで良いと考える。

かん水はポットの底から水が流れ出るほどたっぷり行う。4月から落葉まで通常1回、夏場は2～3回行う。自動かん水にすることで大幅に省力化が図れる。

表1 品種比較

品 種	収穫期		収量		果実重 g	糖度 Brix
	始	終	g/樹	個/樹		
榊井ドーフィン	9/1	10/21	2,541	27	94.8	13.7
ショートブリッジ	9/3	10/22	936	27	30.6	15.0
ブリジャソットグリース	9/24	10/23	438	10	43.2	17.4
ピオレーソリエス	10/6	10/27	861	15	51.8	15.5

表2 施肥量と生育、収量（4本仕立）

試験区	植付 年数	平均結果 枝長cm	収穫期		収量/樹		果実重 g	糖度 Brix
			始	終	g	個数		
N20区	2年	100	9/1	10/21	2,541	27	94.8	13.7
	3年	101	8/28	11/1	2,008	25	83.6	14.1
N30区	2年	115	8/29	10/29	3,158	32	95.0	14.0
	3年	89	9/2	11/8	3,471	36	97.0	12.9
N40区	2年	101	9/2	10/21	2,426	30	81.0	13.1
	3年	47	9/4	10/18	1,710	21	81.0	13.1

* 平均結果枝長は7月下旬の状態を示す。

表3 施肥方法と果実品質（2本仕立）

試験区	植付 年数	収量/樹 g	果実重 g	糖度 Brix
基肥全量区	1年目	1,060	73.4	14.4
	2年目	2,471	94.3	14.1
分割施肥区	1年目	1,022	70.0	15.5
	2年目	2,110	84.5	14.9



図1 栽培の様子

（問合せ先：0772-65-2401）